

今日の本 大きくなっても 覚えていてくれるかな



▲市立図書館1階にあるじゅうたん敷きの小上がり。絵本や紙芝居が並ぶ



▲『ブックスタート』で配布している絵本やアドバイス集



皆さんには、自分にとっての思い出の一冊はありませんか。子どもの頃、大好きで何度も何度も読んでもらった一冊。辛いときに支えてくれた一冊。感動して涙を流した一冊。掲載された写真がとも印象的で、鮮明に記憶している一冊。そんな一冊一冊が、今の自分を形作ってきたのではないのでしょうか。

本の楽しさを知る

活字離れが叫ばれて久しい昨今ではありますが、『本を読む』ことは、今も昔も言葉を学び、知識を得るとともに、表現力を高め、また、想像力の育成につながります。

市は、子どもたちが幼い頃から読書を習慣付けていくよう平成18年3月に第1次となる『登別市子ども読書活動推進計画』を策定しました。

現在は、『第3次登別市子ども読書活動推進計画』に基づき、幼い頃から本に親しみ、本の楽しさを体験できるよう、成長段階に応じて読書の機会を提供できるように環境整備を進めています。

その取り組みの一つとして、『ブックスタート』と『ライブラリースタート』があります。

まだ、自分で字を読むことができない子どものときから、保護者とふれ合いながら、愛情いっぱいのおたたかな声で絵本の世界を楽しむことは、子どもの豊かな感受性を高めることはもちろん、親子のコミュニケーションの大切な機会にもなります。

市は、4カ月児健診のときに絵本数冊と市立図書館にある『おす



▲幅広い種類の絵本からお気に入りを選ぶ『ライブラリースタート』

すめ絵本リスト』、アドバイス集、コットンバックを配布する『ブックスタート』事業を実施し、保護者の読み聞かせに対する意欲を高めるとともに、子どもの頃から本にふれ、本に親しむ機会づくりに取り組んでいます。

また、さまざまな言葉を覚え始め、いろいろなことへの好奇心が膨らむ3歳児を対象に、数種類の絵本を図書館などで実際に見ていただき、気に入った絵本を1冊プレゼントする『ライブラリースタート』事業を実施しています。絵本に込められた仕掛けなど、文章だけでは表せない本の世界が子どもの興味を深め、豊かな感受性を育むとともに、本の楽しさを知ることで、子ども自らが次の一冊へと手をのばしていくのではないのでしょうか。